① '26. 1/ 8(木)阪神間モダニズムの建築散歩と門戸厄神の　見所など

'25. 12. 1

1. 関西学院大学上ケ原キャンパス

キャンパスはスパニッシュ・ミッション・スタイルで統一され、白亜の壁、赤瓦、アーチ窓などが特徴的です。建築家W・M・ヴォーリズが、1929年に西宮上ケ原キャンパスの設計を担当し、近代建築とキリスト教精神を融合させた設計思想で知られて、時計台を中心とした空間構成は、近代的な美意識と郊外文化の融合を体現しています。

ヴォーリズは甲山の稜線に向かって主軸線を引き、時計台(旧図書館、現博物館、但し1月は休館)を中心に校舎を左右対称に配置。視線が自然と甲山に導かれる設計は、精神性と景観美を兼ね備えています。中央芝生を囲む校舎群は、郊外の理想的な学びの場、阪神間モダニズムの「文化的郊外」の象徴とされる。

講義棟などへの立ち入りは出来ませんが、ランバス礼拝堂、関西学院会館、新・旧学生会館は 一般人も入場、利用可能です。

2. 同内 学食について

学生会館旧館に　BigMama(09:00～10:00、11:00～)、PocketMama(生協)、また　学生会館新館に　BigPapa 10:00～)、生協、東京(ﾄﾝｷﾝ)庵、三田屋ﾚｽﾄﾗﾝ、Robin Hood's、らぁ麺たか和などがあります。

また 関西学院会館にもレストラン、Café、　構内には Locomocoなどのキッチンカーが出ています。

3. 関西学院大学聖和キャンパス

元々は聖和大学のキャンパスとして設立され、'09年に関西学院と合併、現在はその教育学部、同大学院、関西学院短期大学のキャンパスとなっている。 この4号館と ゲーンズハウスも　ヴォーリズの設計。

また　同じくヴォーリズ設計の神戸女学院大学の校舎(重要文化財の多くは森の中にあって外部からは見えません)の一部も　フェンス越しに見えます。

4. 門戸厄神

門戸厄神(もんどやくじん)は、高野山真言宗の寺院「松泰山東光寺」の通称で、厄除けの霊場として関西一円に広く知られ、特に厄年の参拝者で賑わう場所です。

本尊は　薬師如来、厄神堂本尊の厄神明王は愛染明王と不動明王が一体化したもので　弘法大師自ら白檀木に刻んだものとされ、毎月19日の縁日、特に正月18日、19日の厄除大祭は多くの参拝者で冬の風物詩とされる。

5. 旧山本家住宅

旧山本家住宅は、和洋折衷の建築美と阪神間モダニズムの象徴の一つとされ、特に木の質感を生かした意匠や　関西では珍しい不昧流茶室が見どころです。

外観はハーフティンバー・スタイル(木材の梁や柱を露出させ、漆喰などで埋める西洋建築様式)を採用し、郊外住宅らしい穏やかな佇まい、内部はステンドグラスの応接室、ヘリンボーン床の階段ホール、大理石のマントルピースなど、木の質感と工芸的な意匠が随所に施されています。

茶室は松平不昧流の様式で、貴人口から入る設計や網代天井など　細部にこだわりが光ります。

6. カトリック夙川教会

カトリック夙川教会(正式名称:幼きイエズスの聖テレジア教会)は、1932年に完成したネオ・ゴシック様式の壮麗な聖堂で、阪神間モダニズムを象徴する西宮市のランドマークです。

尖塔、アーチ窓、ステンドグラスなどが特徴のネオ・ゴシック様式で、鐘楼と11個のカリヨン、またパイプオルガンによる定期的なバロック音楽の演奏会なども行われています。

また遠藤周作が　灘中時代に洗礼を受けた教会としても知られます。